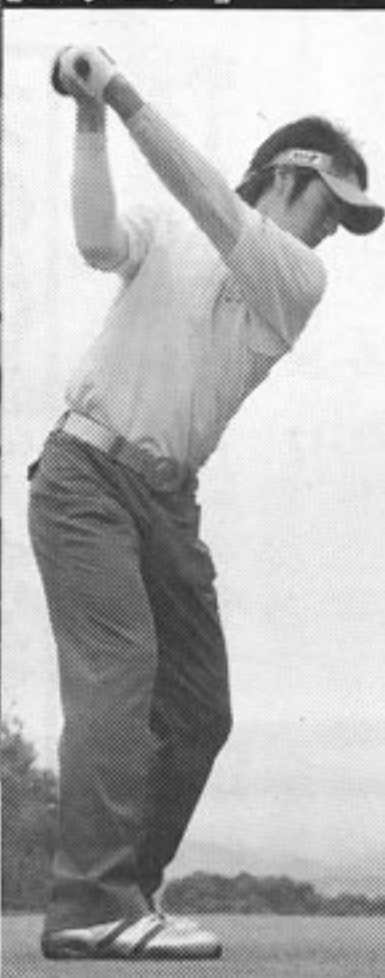


# ヘッドが隠れるスクエアトップに

【スクエア】

【ややクロス】



右ひじを空けず、右肩甲骨を背骨側に入れるとシャフトはクロスしない。スクエアなトップになり、強く叩ける準備が整う

「飛ばす」から、「飛んで曲がらない」へ  
**トップを直せば、手打ちも直るんです**

**完全スクエアトップは大きく飛ばせる**

私が初めて会ったのは、遼くんが小学5年生のころ。当時からゴルフが大好きで、ボールを打って

いけば満足という感じの子でしたね。それは今も変わらないでしょう。印象的なのは、こちらがはつきりと答えを出せるような質問をしてくること。例えば「バンカーの目玉はどう打てばいいの」ではなく、「開くのとはどう使分けたいのか」と聞いてくる。それで答えると、

まず試してみても、それで自分が使えるかを確認しているように見えませんでした。

質問に答えたりすることのほうが多かったのですが、技術的に教えたこととしては、トップの作り方です。中学に入った頃、トップでシャフトがクロス（飛球線



**佐々木孝則**

ささきたかのり。小5から中3まで遼くんとラウンドし、プロの技を伝授。セントラルフィットネスクラブ三郷所屬

遼くんからひと言

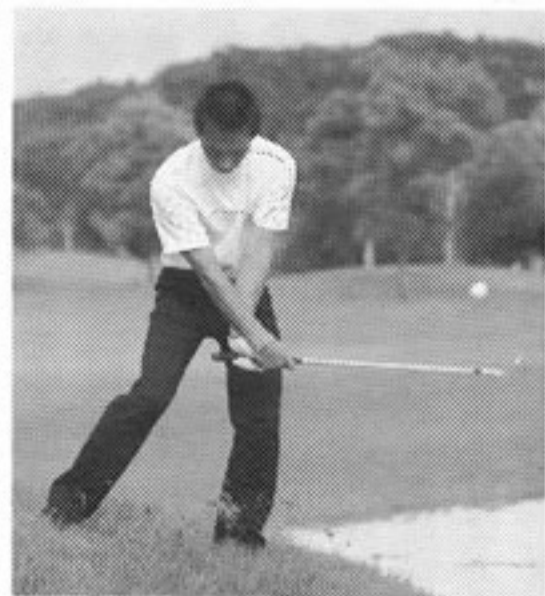
**実践的な小技、勉強になりました**

勉強になったのは、実践的な小技です。いかにイメージーションを出して行くのかとか、寄せには何十通りものバリエーションがあるというのも佐々木先生から教わりました。

の右を向く）し始めたんです。シャフトがクロスするとダウンでクラブがインからもアウトからも下りてしまい軌道が不安定になる。それでスクエアに下りるように、極端にクラブをレイドオフ（飛球線の左を向く）に上げる練習をさせたんです。特に右ひじが空かないように意識させて、右肩甲骨がトップでグッと背骨側に入る感じを作りました。この方法でトップを修正してから、一層主体体のスウィングができるようになったと思います。クロスのままだと、どうしても手を使いやすく、ダウンでタメが強くなり、スピンの多い球になってしまう。昔のクラブな

【遼に教えたテクニック】  
**左足下がりがりから高い球を打つ**

小学生の遼くんが興味津々だったのが、左足下がりがりから高い球のアプローチ。テークバックで早めにコックを入れ、フォローでヘッドが手元を追い越すようにスバツと振り抜く。柔らかい球が打てます。



らしいですが、今のクラブには合わない打ち方なんです。

インパクトで合わさずに最後まで振り切れるのは、トップのポジションがいいから。それを手ではなく体で作っているから、反復性の高いスウィングになっているんです。力一杯振っているように見えますが、土台がしっかりしているから振り切れる。あの爆発的は飛距離は、フルスウィングを支える強い肉体と、完全なスクエアトップが生んでいるのです。